

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ポコアポコ・アニマ		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 5日		～ 令和8年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 5日		～ 令和8年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが学校のような評価やプレッシャーを感じることなく、ありのままの自分で過ごせる「安心の居場所」を提供できている点です。ただ心を休めるだけでなく、今後はこの安心感をしっかりと土台にした上で、子どもたちが自然と自信を取り戻し、次のステップや社会参加へ踏み出すための意欲を引き出せるような支援体制を強化していくことが期待されています。	日々の支援にて「今日も来所できた」「友達に挨拶ができた」といった小さな行動を一つひとつ拾い上げて承認するよう工夫しています。失敗しても大丈夫！次やってみよう！次はこうしてみよう！またやってみよう！と声掛けをし、子どもたちが少しずつ「自分にもできる」という感覚を取り戻せるよう意識的に取り組んでいます。	今後は、支援員の「待つ、見守る姿勢」を大切にしつつも、次の段階へ進むための見通しをご家族に丁寧にお伝えし、焦りを和らげる取組を充実させます。また、事業所内で見られた日常の小さな成長や得意なことをしっかりと形や記録に残し、次へ進むための自信の根拠として還元していくことで、さらなる支援の充実を図ってまいります。
2	型にはめず、進学や就労といった次のステップへの選択肢をフラットに提示し、一人ひとりの適性に合わせた支援ができることが当事業所の強みです。今後は、事業所内での活動にとどまらず、子どもたちが無理なく外の世界と関わりを持てる機会を増やし、将来に向けた活動の幅を広げるためのサポートをより一層充実させていくことが期待される部分だと感じています。	支援にあたっては、子どもたちの言葉だけでなく、表情や来所頻度、活動への参加意欲などを細かく観察し、心の状態を把握するよう工夫しています。無理に進路を決定させるのではなく、心のエネルギーが十分に溜まったベストなタイミングを見極めてから、本人が興味を持ってそうな次のステップを提案することを意識して取り組んでいます。	さらに支援を充実させるため、短時間の見学など、ごく小さな活動から無理なく社会へ参加できる体験の機会を少しずつ増やしていきます。また、こうしたスモールステップの積み重ねが将来にどう繋がるのか、支援の道筋を明確に示し、ご家族が焦りを感じることなく安心して子どもを見守れるような環境づくりに努めてまいります。
3	長期的な視点を持ち、世間のプレッシャーに急かされない安心の環境づくりができています。子どもたちの間では、同世代の仲間や先輩が後輩に対して自発的に教え合う姿が定着しています。本人のペースを大切にしながら、先を見据えた「次の準備」にじっくりと時間をかけられることが事業所の大きな魅力です。	支援員は直接介入しすぎず、子ども同士の関わりを見守りながら必要なサポートを見極めていきます。子どもが本来持っている力を引き出すために、すぐに次のステップへ進もうとするのではなく、同世代の仲間と共に安心して過ごす時間を保障することで、仲間と自発的な再スタートへと繋げることを目指しています。	今後の取組として、保護者様同士が悩みを共有し合える交流の場を定期的に設け、家庭の支援力を高めていくための家族支援を強化します。加えて、日々の些細な変化や得意なことを記録として可視化し、事業所とご家庭がひとつのチームとなって子どもを支えていけるよう、さらなるサポート体制の充実を図っていきたくと考えております。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	最長20歳まで長期的なスパンで本人のペースを保ちつつじっくり時間をかけられることです。しかし、この手厚いサポートと時間的な猶予がある反面、将来への具体的なステップが見えにくくなってしまうことが弱みです。学校のような明確な評価がないため、ご家族が「このままで大丈夫か」と焦りや不安を抱えやすい点が、改善すべき課題だと感じています。	この課題の要因は、子どもたちが失敗を恐れず安心できる環境を作るために、あえて学校のようなテストの点数や出席日数といった評価基準を一切持ち込んでいないことにあります。日々の小さな行動を拾い上げて承認し、少しずつ自信を取り戻させることを最優先にしているため、結果として次の段階へ進むための明確な基準や時期が分かりにくくなり、ご家族への見通しの共有が不足してしまっていました。	今後は、本人のペースを守る安心の居場所という強みはそのままに、次の段階へ進むための支援の道筋を分かりやすく提示し、ご家族の焦りを和らげる工夫をいたします。また、得意なことや日々の小さな成長をしっかりと記録や形に残し、自信の根拠として共有します。さらに、短時間の見学など無理のない範囲での就労支援や社会参加を促すとともに、保護者様同士が交流できる場を設けてご家庭への支援力を高めてまいります。
2	型にはめず、一人ひとりの状態に合わせて進学や就労の選択肢をフラットに提案できることが事業所の強みです。しかし、事業所内が完全に評価されない安心の居場所となっているため、外の世界や次のステップへ踏み出す際の心理的なハードルが高くなってしまっているように感じられます。じっくり心を休めた後、いざ社会参加へ向かおうとする時の具体的な道筋が見えにくいことが現在の課題です。	課題の背景には、無理に進路を決定させるのではなく、心のエネルギーが十分に溜まったベストなタイミングを見極めてから次のステップを提案するという、私たちの「待つ姿勢」があります。日々の表情や参加意欲から心の状態を細かく観察することに注力するあまり、次の段階へ移行するための具体的な準備や、スモールステップでの社会体験を促すタイミングを逃しがちになっていたことが要因として考えられます。	改善に向けた取組として、まずは小さな活動から社会との接点を持てるよう、短時間の見学など社会体験を少しずつ取り入れてまいります。また、活動期へ移る際の見通しをご本人とご家族へ丁寧にお伝えし、焦らず次へ向かえるようサポートします。日々の活動で見られた小さな成長は形に残して次へ進むための自信へと繋げ、同時に保護者様が悩みを共有できる交流の場も充実させていきます。
3	低下した自己肯定感を回復させるため、ありのままを受け入れる「評価されない安心の居場所」として機能していることは当事業所の大きな強みです。ただ、学校的な成績などが無い分、目に見える形での成長が実感しにくく、保護者様が将来に対する見えない不安を抱えやすい点が弱みとなっています。安心して環境をより強化・充実させるためにも、この「見えにくさ」を改善することが課題です。	すぐに次のステップへ進もうとするのを控える支援を行っています。この前提に立ち、子どもが本来持っている力を引き出すために時間をかけて寄り添う姿勢が、結果として「いつになったら次へ進めるのか」という見通しの不透明さを生んでしまいました。成果を急がない方針が、ご家族への安心感の提供という点で不足を招いていたと考えます。	子どもが本来持っている力を引き出すために生徒一人一人が「何が得意(強み)で何が苦手(弱み)」なのかを本人を交えて検討し、次へ進むための自信の根拠としてご家族へ分かりやすくお伝えする工夫を行います。将来の自立を見据えて、社会参加や職場体験などの機会を設けます。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ポコアポコ・アニメ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月5日		令和8年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日		令和8年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【制度を最大限に活用した「時間的な猶予(最長20歳までのサポート)】」例えば「通信制高校へ再入学する」といった選択と放課後等デイサービスを組み合わせることで、特例として最長20歳まで支援を継続できるノウハウを持っています。年齢や世間のプレッシャーに急かされることなく、本人のペースで「次への準備」にじっくり時間をかけられる環境は大きな強みです。	学校のような「テストの点数」や「出席日数」といった評価基準を一切持ち込まず、「今日は決まった時間に来所できた」「挨拶ができた」「好きな作業に集中できた」という、日常の小さな行動を拾い上げて承認します。失敗しても怒られない環境で、少しずつ「自分にもできる」という感覚を取り戻させます。	高校中退などを経験した生徒へ、進学や就職に向けた途切れない支援を行っています。学校のような評価をせず「安心できる居場所」として自信の回復に努めてきました。支援手順の明確化：活動への道筋を示し、ご家族の焦りを和らげます。負担の少ない体験：短時間の見学等で、無理なく社会参加を促します。成長の記録：得意なことを形に残し、自信に繋がります。家族支援：保護者同士の交流の場を設け、家庭の支援力を高めます。
2	【型にはめない「進学と就労のサポート」】「学校を辞めたから次は働くしかない」「とりあえず別の学校に行くべき」といったことではなく、アニメでは、生徒の現在の状態や特性を丁寧に把握し、「もう一度進学(通信制など)に挑戦するのか」「一般就労や自立訓練といった働くステップへ進むのか」の選択肢をフラットに提示し、一緒に模索することができます。一人ひとりの適性に合わせた進路支援が可能です。	本人の言葉だけでなく、日々の表情、来所頻度、活動への参加意欲などから「心の状態」を細かく観察します。無理に進路を決定させるのではなく、心のエネルギーが十分に溜まったベストなタイミングを見極めてから次のステップを提案します。	評価をせず本人の歩調に合わせた「安心の居場所」を提供し、自信の回復と気力の充実を図っています。今後はこの待つ姿勢を土台に、以下の支援を充実させます。支援の道筋の提示：休養から次の段階への見通しを示し、ご家族の焦りを和らげます。負担の少ない体験：短時間の見学など、ごく小さな活動から社会への参加を促します。強みの記録：日常の小さな成長を形に残し、次へ進むための自信の根拠とします。ご家族の交流：保護者同士が悩みを共有できる場を設け、ご家庭の支援力を高めます。
3	【自己肯定感を回復させる「評価されない安心の居場所」】すぐに次のステップへ進もうとしても、心が回復していなければ長続きしません。アニメは「幼少期から成人まで途切れない支援」を理念としているため、学校のように「成績」や「出席日数」で評価されることのない、ありのままを受け入れてもらえる「安心の居場所」として機能します。ここで十分に心を充電することで、子どもが本来持っている力を引き出し、自発的な再スタートへと繋げることができます。	学校的な評価基準を一切持ち込まず、「事業所に来た」「好きなことに取り組めた」といった日常のありのままの姿を承認し、低下した自己肯定感を回復を図ります。心の充電を最優先、心が回復していなければ長続きしないという前提に立ち、すぐに次のステップへ進もうとするのではなく、ここで十分に心を充電することを優先します。その結果として、子どもが本来持っている力を引き出し、自発的な再スタートへと繋げる 事を目指します。	本人の歩調に合わせた「安心の居場所」を提供し、自信の回復と気力の充実を図っています。今後はこの待つ姿勢を土台に、休養から次の段階への見通しを示してご家族の焦りを和らげるとともに、短時間の見学などごく小さな活動から社会への参加を促します。また、日常の小さな成長を形に残して次へ進むための自信の根拠とし、保護者と悩みを共有できる場を設けてご家庭の支援力を高めるなど、さらなる支援の充実を図ってまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所は子どもたちの心を回復させる安心の居場所ですが、その反面、次の目標や進路に向けた具体的な動きが見えにくくなる時期があります。学校のような明確な基準がないため、日々の成長が形として見えづらく、ご家族が「このままで次へ進めるのか」と焦りや不安を抱えやすい状況が生じていることが、現在の大きな弱みであり改善すべき課題だと感じています。	この課題の要因は、心の充電を最優先にし、あえて学校的な評価基準を一切設けない支援方針をとっている点にあります。心のエネルギーが溜まるのを待つことは当事業所の強みですが、同時に先の見通しを立てにくくしています。また、日々の些細な成長や本人の得意なことを、目に見える客観的な記録としてご家族へ十分に共有しきれていなかったことも要因の一つです。	今後は、本人のペースを守る安心の土台はそのままに、休養から次の段階へ向かう支援の道筋をご家族へ示し、焦りを和らげます。また、日常の小さな成長を得意なこととして形に残し、次へ進むための自信の根拠とします。さらに、短時間の見学など負担の少ない体験で無理なく社会参加を促すとともに、保護者様同士が悩みを共有できる交流の場を設けて支援力を高めます。
2	アニメでは、ありのままを受け入れて自己肯定感を回復させる支援に力を入れています。しかし、事業所内で安心できるようになる一方で、外の世界や次の社会参加へ踏み出すハードルが高くなってしまっていることが課題です。プレッシャーから離れて心を休める期間が長くなるほど、いざ進学や就労を考えた際にご本人やご家族がどう動けばよいか戸惑ってしまったりという弱みがあります。	課題の背景には、事業所が「評価されない安心の居場所」に徹していることがあります。テストの点数や出席日数といった物差しを持ち込まず、心の充電を最優先にしているため、どうなれば次へ進めるのかという基準が曖昧になりがちです。また、エネルギーが溜まるベストなタイミングを見極めることに注力するあまり、ご家族へ先の見通しを示す手順が不明確になっていたことも要因です。	心の充電具合に合わせ、短時間の見学など極めて負担の少ない形での社会参加体験を取り入れます。また、ご家族には休養から次の段階への見通しを丁寧に伝え、焦らず次へ向かうための支援手順を明確に共有します。加えて、日々の活動の中で見つけた本人の強みを形にして残し自信の根拠としながら、ご家庭を支えるための保護者交流の場も充実させます。

3	<p>多様な進路選択や長期的なサポートを強みとする一方で、そこに至るまでの日常的な成長の実感がご家族に伝わりにくい点が課題です。事業所に来て好きなことに取り組む時間は充実していますが、それが将来の進学や就労にどう繋がるのか見えにくいいため、保護者様が将来に対する見えない不安や焦りを抱えやすく、家庭内でのサポートに迷いが生じやすい状況が弱みとなっています。</p>	<p>この要因は、私たちが一人ひとりの心の状態を細かく観察し内面的な変化を重視する一方で、それを目に見える成果として還元する仕組みが弱かった点にあります。失敗しても怒られない環境で本人は少しずつ自信を取り戻していますが、無理に進路を決定させないという寄り添う姿勢が、結果としてご家族に対する見通しの不透明さを生んでしまっていると考えられます。</p>	<p>まずは日常の些細な成長や得意な作業への集中力を強みの記録としてしっかり形に残し、ご本人が次へ進むための自信の根拠とします。同時に、休養期から次の段階へと移行する際の支援手順を明確化し、ご家族へ見通しを示して焦りを和らげます。さらに、ごく小さな活動から社会参加、社会生活を促すとともに、保護者様同士の交流の場を作ると共に家庭の支援力を高めます。</p>
---	--	---	--